

横浜市の検診・検査の申込方法

- 1 受たい検診・検査にあわせて、
受診する医療機関を選びます。
- 2 選んだ医療機関へ直接電話で
「横浜市の〇〇検診・検査を受けたい」
と連絡します。
- 3 予約した日時に、健康保険証など、
ご本人確認ができるものを持って、
受診してください。

お願い

1月から3月は、実施医療機関が
混雑するため予約が取りにくく
なります。
スムーズな検診実施のためにも、
なるべくその時期を避けて
ご予約・ご受診くださいますよう
お願いいたします。

※費用が免除になる方は、免除の対象と確認できるもの(1ページ参照)を必ずお持ちください。

がん検診・検査、実施医療機関などについてはこちらへ

横浜市けんしん
専用ダイヤル



TEL : 045-664-2606
FAX : 045-664-3851

【受付時間】

8時30分～17時15分
(日曜・祝日・年末年始を除く)

横浜市がん検診
ホームページ



こちらへ
アクセス



横浜市がん検診 検索

お問合せ先

2023

横浜市 がん検診 ガイド



横浜市がん検診のご案内

がんは横浜市民の死亡原因第1位です。

しかし、がんは早期に発見し、適切な治療をすれば治る病気です。

横浜市では、現在加入されている健康保険などでは
受診機会のない横浜市民の方を対象に、がん検診を実施しています。

ぜひこの機会を利用して、定期的にごがん検診を受けましょう。



横浜市がん検診の内容

参照ページ	検診種類	受診回数	対象者※1	費用	実施場所	検査項目
4ページ	大腸がん	1年度に1回	40歳以上	無料	●大腸がん検診実施医療機関	問診、便潜血検査
5ページ	胃がん(内視鏡)	2年度に1回※2	50歳以上	3,140円※3	●胃がん検診実施医療機関	問診、胃部内視鏡検査
	胃がん(エックス線)					問診、胃部エックス線検査
6ページ	肺がん	1年度に1回	40歳以上	680円	●肺がん検診実施医療機関 ●お住まいの区の区役所健康づくり係	問診、胸部エックス線検査
7ページ	子宮頸がん	2年度に1回	20歳以上(女性)	子宮頸がん 1,360円※4	●子宮頸がん検診実施医療機関	問診、細胞診検査
8ページ	乳がん (①か②の選択制)	2年度に1回	40歳以上(女性)	①マンモグラフィ単独 680円※5 ②視触診+マンモグラフィ 1,370円	●乳がん検診実施医療機関	どちらか選択できます ①マンモグラフィ検査単独 ②視触診及びマンモグラフィ検査
9ページ	前立腺がん	1年度に1回	50歳以上(男性)	1,000円	●前立腺がん検診実施医療機関	問診、血液検査

※1 令和6年4月1日までに対象年齢に達する方は、受診が可能です。また、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施の指針」(令和3年10月1日一部改正)により、受診を特に推奨する方の年齢は69歳以下までとなっています。

※2 胃がん検診は同一年度に内視鏡検査とエックス線検査の両方を受診することはできません。また、連続する年度に内視鏡検査とエックス線検査を交互に受けることはできませんのでご注意ください。

※3 胃がん検診で内視鏡検査を希望される方は、受診当日に保険証を必ずお持ちください。内視鏡検査は検診の途中で確定診断のための病理検査を目的に粘膜片を採取する生検を行う可能性があります。この生検は保険診療となりますので、別途費用がかかります。

※4 令和5年度から医師が必要と判断した場合の子宮体がんの検査は保険による診療となっています。

※5 乳がん検診は視触診が選択制、マンモグラフィ検査は受診が必須です。マンモグラフィ検査を受けた後に視触診を受診することはできませんのでご注意ください。

★検診の結果、精密検査が必要となった場合や病気が発見された場合などの検査料、治療費は保険診療となり別途料金が必要となります。

★横浜市では、受診された方の検診結果などの情報を把握・分析し、今後のがん対策の推進に役立てています。

- 検診を受けた後に費用の免除はできませんのでご注意ください。
- 令和6年4月1日時点で70歳以上の人(昭和29年4月1日以前にお生まれの方)
 - ➡ 年齢確認できるもの(健康保険証など)を検診時にご提示ください。
 - 後期高齢者医療制度が適用される人
 - ➡ 「後期高齢者医療被保険者証」を検診時にご提示ください。
 - 生活保護世帯の人
 - ➡ 「休日・夜間等診療依頼証」を検診時にご提示ください。
 - 中国残留邦人等支援給付制度が適用される人
 - ➡ 「本人確認証」を検診時にご提示ください。
 - 令和4年度市民税県民税が非課税世帯・均等割のみ課税世帯の人(世帯員全員の令和3年中の収入に基づきます。)
 - ➡ 検診前に手続きが必要です。お住まいの区の区役所健康づくり係にお問い合わせください。

※令和5年度、大腸がん検診は自己負担額無料のため、減免確認書の申請は必要ありません。

各区役所福祉保健課健康づくり係お問合せ先(市外局番は「045」です)

青葉区役所 健康づくり係	978-2438	瀬谷区役所 健康づくり係	367-5744
旭区役所 健康づくり係	954-6146	都筑区役所 健康づくり係	948-2350
泉区役所 健康づくり係	800-2445	鶴見区役所 健康づくり係	510-1832
磯子区役所 健康づくり係	750-2445	戸塚区役所 健康づくり係	866-8427
神奈川区役所 健康づくり係	411-7138	中区役所 健康づくり係	224-8332
金沢区役所 健康づくり係	788-7840	西区役所 健康づくり係	320-8439
港南区役所 健康づくり係	847-8438	保土ヶ谷区役所 健康づくり係	334-6345
港北区役所 健康づくり係	540-2362	緑区役所 健康づくり係	930-2357
栄区役所 健康づくり係	894-6964	南区役所 健康づくり係	341-1185

がんは横浜市民の死亡原因の第1位です

がんを早期発見するためには、自覚症状がないうちから、**がん検診を定期的に受けることが大切です。**

がん検診のメリット・デメリット

がん検診には、早期のがんを見つけて早めに治療を行うことで、救命の効果があるという最大のメリットのほかにも、早期発見により治療の身体的負担、経済的負担が少なくすむメリットなどがあります。

異常なしという判定が100%正しいというわけではないこと、逆に検診で精密検査が必要となり、精密検査を受けた結果「がんではない」と判定される「偽陽性」、その後進行がんにならなかつたりして、生命に影響を及ぼさないがんまで発見してしまう「過剰診断」、検査による出血や放射線の被ばくなどの偶発症など、デメリットもあります。このメリットとデメリットをよく知ったうえで検診を受けてください。

● がん検診のメリット・デメリットに関すること

公益財団法人 日本対がん協会

https://www.jcancer.jp/about_cancer_and_checkup

国立がん研究センターがん情報サービス

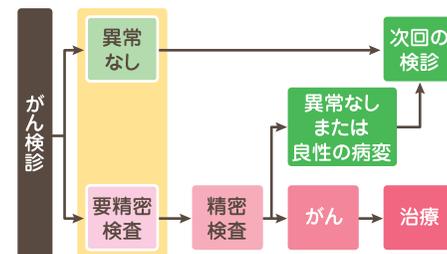
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about/scr.html

がん検診の流れ

がん検診は、一見健康な人に対して、「がんがありそう(要精密検査)」、「がんがなさそう(異常なし)」ということを判定し、「ありそう」と判定された人には精密検査の受診をおすすめします。

精密検査で「がん」が発見された場合には、治療を行います。精密検査や治療を受けない場合には、せっかくの早期発見・早期治療の機会を逃してしまいますので、ぜひ受診をしてください。

● 検診の結果、精密検査が必要となった場合や病気が発見された場合などの検査料、治療費は保険診療となり別途料金が必要となります。



大腸がん

令和5年度は
大腸がん検診が**無料**で
受診できます。



大腸がんにかかる率は、50歳頃から増加しはじめ、高齢になるほど高くなります。大腸がんは、がんによる死亡原因の中で女性第1位、男性第3位のがんです。

早期であればほぼ100%近く完治しますが、一般的には自覚症状はありませんので、無症状の時期に検診を定期的に受けて早期発見することが重要となります。

男女ともに、
40歳以上は年に1回、
大腸がん検診を受けましょう。

横浜市の 大腸がん 検診方法

問診、検査(便潜血検査2日法)

大腸にがんやポリープなどがあると、出血がみられることがあります。検便により、大腸内の出血の有無を調べます。精度を上げるため、2日分の便を検査します。

陽性(要精密検査)と判定された人は、必ず精密検査を受けるようにしましょう。



※上皮内がんを含む(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)
※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください!

- 血便
- 便が細くなる
- 残便感
- 腹痛
- 下痢と便秘の繰り返し
- 貧血
- 体重減少 など



胃がん

男女ともに、
50歳以上は2年に1回
胃がん検診を受けましょう。



胃がんは50歳代後半から増加しはじめ、男性のほうが女性よりがんにかかる率や死亡率が高くなっています。

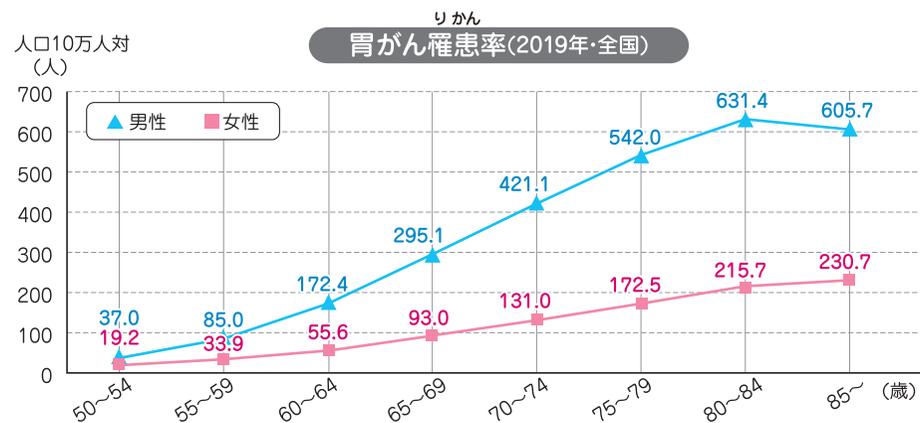
胃がんは、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。

早期の胃がんは、多くの方が検診によって発見されています。定期的に検診を受けることが、早期発見のために最も重要なことです。

横浜市の 胃がん 検診方法

問診、胃部内視鏡検査または胃部エックス線検査

「胃部内視鏡検査」は内視鏡を口または鼻から挿入し、胃を観察する検査です。「胃部エックス線検査」は、バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、胃をエックス線撮影する検査です。



(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)

※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください!

- 痛み
- 胃部不快感
- 胸焼け
- 吐き気
- 食欲不振



肺がん

男女ともに、
40歳以上は年に1回、
肺がん検診を受けましょう。



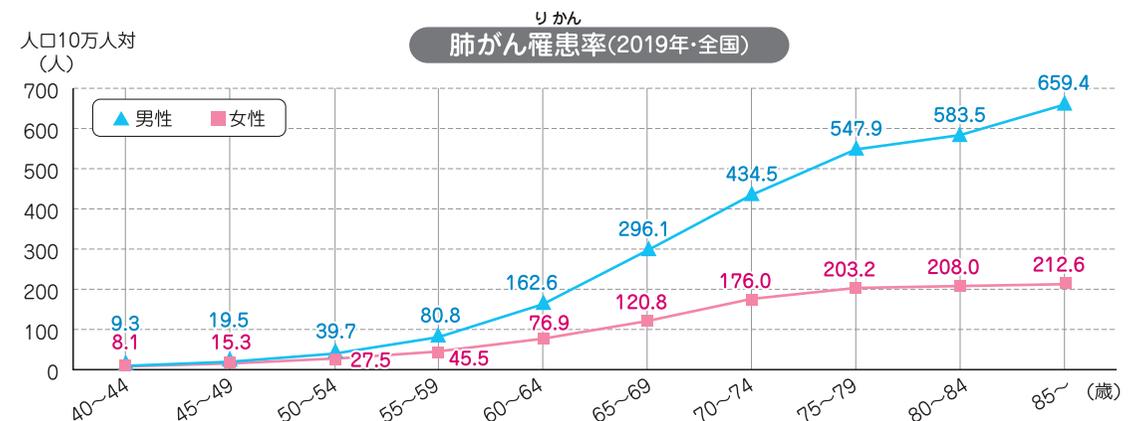
肺がんにかかる率と死亡率は、40歳代後半から増加し始め高齢になるほど高くなります。定期的に検診を受けて早期発見を心がけることが大切です。

タバコは肺がんの原因として大きなものです。禁煙を心がけるとともに、タバコを吸う方は特に検診を受けるようにしましょう。

横浜市の 肺がん 検診方法

問診、胸部エックス線検査

「胸部エックス線検査」は、肺全体を2方向からエックス線撮影し、肺がんの疑いの有無を確認する検査です。



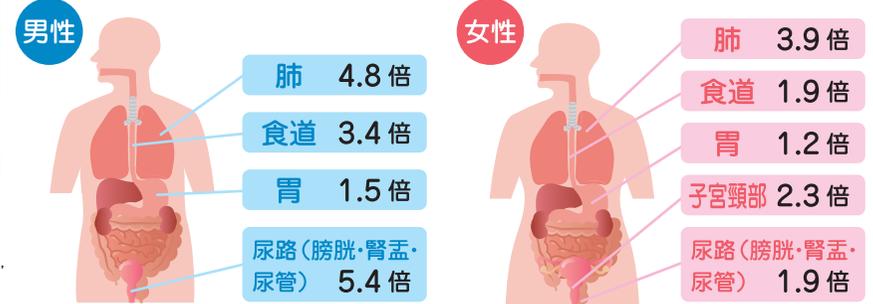
※上皮内がんを含む(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)

※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

たばこががんの 関係は深い!!

喫煙習慣はさまざまな
がんのリスクを高めます!

非喫煙者と比較して
喫煙者のがんによる死亡リスク
(資料:Journal of Epidemiology,
18: 251-264, 2008)



こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください!

- なかなか治りにくい咳や胸痛
- 呼吸時のゼーゼー音
- 血痰
- 息切れ
- 声のかれ
- 顔や首のむくみ など

子宮頸がん

20歳以上の女性は、
2年に1回、
子宮頸がん検診を受けましょう。



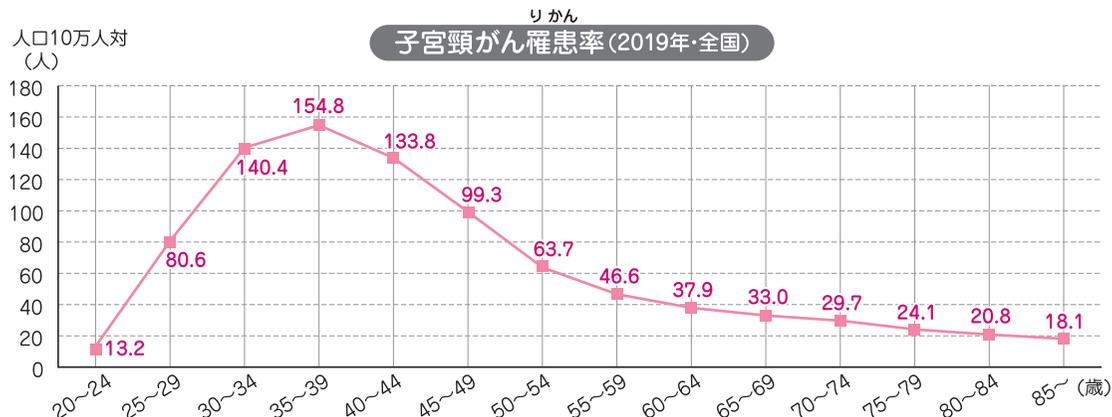
子宮頸がんは、子宮の入口(頸部)に発生するがんです。
子宮頸がんは、20歳代後半から40歳前後が最もかかりやすい年代です。最近では、がんにかかる率、死亡率ともに若年層で増加傾向にあります。
子宮頸がんは、異形成(いけいせい)という前がん状態を経てがんになることが知られており、がん細胞に進行する前の細胞を細胞診という検査で見つけます。

早期に発見すれば比較的治療しやすく、進行すると治療が難しいことから、早期発見が極めて重要です。定期的に検診を受けることが大切です。

横浜市の 子宮頸がん 検診方法

問診、細胞診

子宮頸部の粘膜を採取し、がん細胞の有無やがん細胞の種類(組織型)を調べます。



※上皮内がんを含む(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)
※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

- ※令和5年度から医師が必要と判断した場合の子宮体がんの検査は保険による診療となっています。
- ※性交経験のない方は、子宮頸がんの発生はほとんどないと考えられています。
- 検査によって出血や痛みなどを伴うことがあります。検診内容をご確認の上、医療機関へご相談ください。

こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください!

- 月経とは無関係な出血
- 性行為の際の出血
- ふだんと異なるおりもの
- 月経の量が増えたり長引いたりする など



乳がん

40歳以上の女性は、
2年に1回、
乳がん検診を受けましょう。



女性の乳がんにかかる率や死亡率は年々増加しています。日本人女性の11人に1人は乳がんにかかるといわれており、30歳代から増加し始め、50歳前後にピークをむかえます。

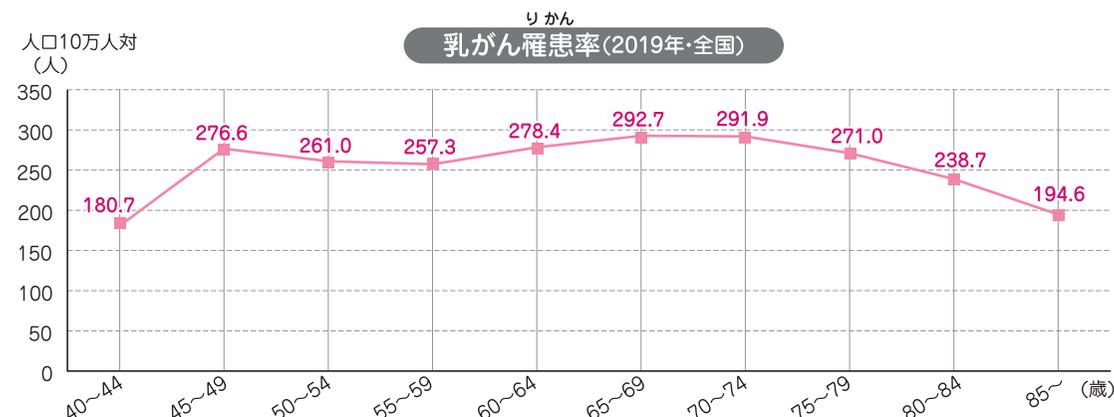
早期発見すればほとんど治り、乳房を温存することもできます。自覚症状がある場合は専門医がいる医療機関を受診しましょう。

どちらか選択できます!!

問診、マンモグラフィ検査単独または視触診+マンモグラフィ検査

「視触診検査」は医師が乳房を診察し、がんの有無を判断する検査です。「マンモグラフィ検査」は、乳房エックス線撮影のことです。この検査では、視触診ではわからない早期がんの発見が可能になります。マンモグラフィで発見される乳がんの70%以上は早期がんで、早期に発見できれば乳房温存手術など、多様な治療を選択できる可能性が大きくなります。

横浜市の 乳がん 検診方法



※上皮内がんを含む(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)
※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

プレストアウェアネスをご存知ですか

女性自身が自分の乳房の状態を日ごろから関心を持ち、乳房を意識して生活することを「プレストアウェアネス」といいます。「プレストアウェアネス」を身につけるためには、乳がん検診の受診に加えて、以下3つの項目を実行することが大切です。

- ①自分の乳房の状態を知るために、日頃から自分の乳房を見て、触って、感じる習慣をつけましょう。
- ②その上で気をつけなければいけない乳房の変化を知りましょう。

- 乳房のしこり
- 乳房のえくぼなど皮膚の変化
- 乳房の近く(腋の下や鎖骨あたり)のリンパ節のはれ

- ③上記のような変化を感じたら、検診ではなく、すみやかに医療機関で「診察」を受けましょう。



前立腺がん

50歳を過ぎたら、年に1回、
前立腺がん検診（PSA検査）
を受けましょう。



前立腺は男性だけにあり（精液の一部を作る臓器）、膀胱の下で直腸の前にあります。
前立腺がんにかかる率は、65歳以上で増加します。
他のがんと同じように、早期の前立腺がんには特有の症状はありません。

横浜市の
前立腺がん
検診
(PSA検査)
検診方法

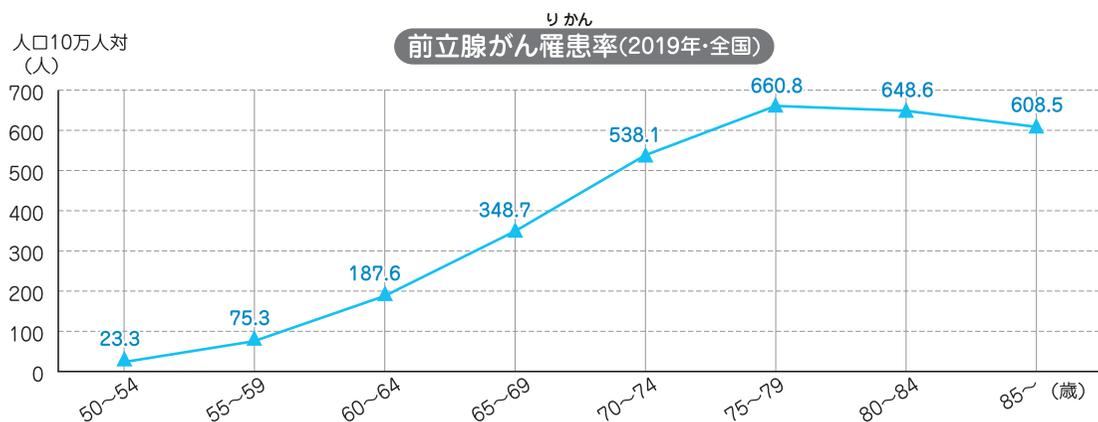
問診、採血

採血により前立腺特異抗原（PSA）とよばれる物質を測定する検査です。

●PSAとは…

PSAは前立腺がんになると血液中に増加するため、PSA値が高いほど前立腺がんが疑われます。

ただし、PSA値が高ければ、必ずがんであるというわけではありませんし、逆にPSA値が正常の場合でも前立腺がんが発生していないということにもなりません。あくまでも、前立腺がんを発見するきっかけとなる一つの指標です。



(出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉)

※このグラフは1年間の罹患数を単純にその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください!

- 排尿困難（尿が出にくい）
- 頻尿（尿の回数が多い）
- 夜間多尿
- 尿意切迫感（尿意を感じるとトイレにいくまで排尿をがまんできない状態）
- 下腹部不快感 など



がん相談支援センター

がん相談支援センターにご相談ください。

がん相談支援センターは、国や神奈川県指定のがん診療拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」です。がん患者ご本人やご家族だけでなく、どなたでも無料で、がんの治療を受けるうえでの不安や悩み、療養生活や仕事のことについて相談することができます。

がんについて詳しい専門スタッフ（看護師やソーシャルワーカー）が、信頼できる情報に基づいて、質問や相談をお受けしています。病院によっては、相談の内容に応じて、専門医やがんについて詳しい看護師（認定看護師、専門看護師）、薬剤師、栄養士などの専門職が対応できる連携体制を整えているところもあります。



「がん相談支援センター」にご相談できることの例

- 自分のがんや治療について詳しく知りたい
- 担当医の説明の中でわからないことがあった
- 活用できる助成・支援制度、介護・福祉サービスを知りたい
- 治療の副作用や合併症と上手に付き合いたい
- 仕事を続けながらの治療はできるか
- 家族の悩みも相談したい
- 地域で緩和ケアを受けられる病院はあるか
- 思いを聞いてもらいたい など

ご相談は主にがん相談支援センターに直接お越し頂き面談で行う方法と、電話でお話を聞く方法があります。

- ◆ 相談内容の秘密は厳守いたします。
- ◆ 相談をすることにより不利益が生ずることはありません。
- ◆ 相談は無料です。

がん情報サービス

<https://ganjoho.jp>

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスのウェブサイトです。がんについて、がんとの向き合い方、診断・治療方法、緩和ケアについて、病院検索など、さまざまな情報を調べることができる「がん情報の入り口」です。

がん情報 検索



「患者必携 がんになったら手にとるガイド」



ご自身、あるいは身近な人が「がん」と診断されたときに、手にとって読むガイドブックです。役立つ情報が体験談とともにわかりやすくまとめられています。（別冊「わたしの療養手帳」も付いています）がん情報サービスから、無料でダウンロード・印刷することができます。また、全国の書店で購入することもできます。

（A5判、全288ページ ISBN:978-4-7809-1129-9）

出典:国立がん研究センターがん情報サービス

横浜市内のがん相談支援センター

※がん相談支援センターは横浜市がん検診の問合せ先ではありません。また、横浜市がん検診を実施していない医療機関もございます。横浜市がん検診実施医療機関については、横浜市けんしん専用ダイヤル(TEL664-2606)にお問い合わせください。

※がん相談支援センターの名称は、設置される病院によって独自につけられているため、「がん相談支援センター」という名称ではない場合があります。

※がん相談支援センターは、担当医に代わって治療について判断するところではありません。

がん相談支援センター名	お問合せ先	相談形態	備考
神奈川県立がんセンター 患者支援センター 患者支援室(がん相談支援センター)	横浜市旭区中尾2-3-2 直通 045-520-2211 (月～金 9時～16時)	☺☎	予約不要
独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院 がん相談支援センター	横浜市港北区小机町3211 代表 045-474-8111 (月～金 8時15分～17時)	☺☎	対面は 要予約
昭和大学横浜市北部病院 がん相談支援センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 代表 045-949-7000 (月～金 8時30分～17時)	☺☎	予約不要
恩賜財団済生会横浜市東部病院 がん相談支援センター	横浜市鶴見区下末吉3-6-1 代表 045-576-3000 (月～金 9時～17時)	☺☎	対面は 要予約
横浜市立市民病院 がん相談支援センター	横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1 代表 045-316-4580 (月～金 9時～16時30分)	☺☎	予約不要
公立大学法人 横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター がん相談支援センター	横浜市金沢区福浦3-9 代表 045-787-2800 (月～金 9時～17時)	☺☎	予約不要
横浜市立みなと赤十字病院 がん相談支援センター	横浜市中区新山下3-12-1 直通 045-628-6317 (月～金 9時30分～16時30分)	☺☎	予約不要
公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター がん相談支援センター	横浜市南区浦舟町4-57 代表 045-261-5656 (月～金 9時30分～16時30分)	☺☎	対面は 要予約
一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 地域医療連携課がん相談支援センター	横浜市西区みなとみらい3-7-3 直通 045-221-8117 (月～金 9時～17時、 第2・4土 9時～12時30分)	☺☎	予約不要
独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター がん相談支援センター	横浜市戸塚区原宿3-60-2 直通 045-853-8317 (月～金 8時30分～17時15分)	☺☎	対面は 要予約
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 がん相談支援室	横浜市金沢区六浦東1-21-1 直通 045-782-2140 (月～金 9時～16時)	☺☎	対面は 要予約
恩賜財団済生会横浜市南部病院 がん相談支援センター	横浜市港南区港南台3-2-10 代表 045-832-1111 (月～金 9時～17時)	☺☎	対面は 要予約
昭和大学藤が丘病院 がん相談支援センター	横浜市青葉区藤が丘1-30 直通 045-974-6307 (月～金 8時30分～17時)	☺☎	対面は 要予約

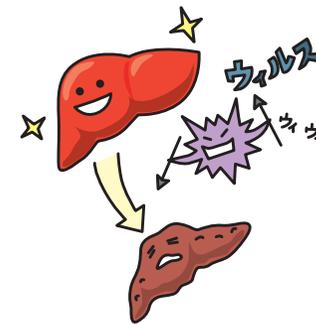
がん以外の疾患について

- 肝炎ウイルス ……12ページ
- 歯周病 ……13ページ
- HIV ……14ページ
- CKD ……14ページ



肝炎ウイルス

**早期発見・早期治療のために、
一度は肝炎ウイルス検査を
受けましょう**



国内で、B型・C型肝炎ウイルスに感染している人は、300～370万人と推定されており、実に日本人の約40人に1人が感染している事となります。またB型・C型肝炎ウイルスに感染していても症状がない場合があり、治療が遅れる一因となっています。

肝炎ウイルスは、血液検査で感染しているかどうか調べることができます。今までに検査を受けたことのない人は、肝炎ウイルス検査を受けましょう。

もし感染がわかって、適切な治療を受けることで肝硬変や肝がんといった深刻な病気に進行するのを防ぐことができます。ウイルス性肝炎は治る病気になっていますので、必ず専門の医療機関を受診しましょう。

治療については、神奈川県で医療費の助成を行っております。ご申請にあたっては各区役所健康づくり係(2ページ)にご申請ください。

横浜市肝炎ウイルス検査のご案内

対象者 過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない
横浜市民

受診費用 無料

実施場所 横浜市肝炎ウイルス検査実施医療機関

〈健康福祉局 健康推進課〉

お問合せ

横浜市けんしん専用ダイヤル

TEL: 045-664-2606

FAX: 045-663-4469

8時30分～17時15分

(日・祝日・年末年始を除く)

歯周病

歯周病検診を受けましょう。



歯周病は、歯垢の中の歯周病菌が、歯肉に炎症をおこしたり、歯を支える顎の骨などを溶かしてしまう病気です。

初期では痛み等の自覚症状がないため、重症化するまで気づかず、歯を失う一番の原因になっています。

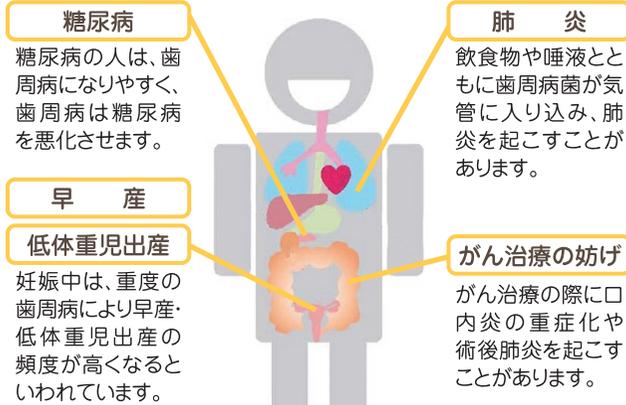
また、歯周病が全身の病気へ影響することが明らかになっています。

歯周病かどうか チェックしてみましょう!

- 歯ぐきがムズムズする
- 歯が浮いた感じがする
- 冷たいものがしみる
- 歯を磨くと出血する
- 朝起きたら口の中がネバネバする
- 口臭がする
- 歯と歯の間のものがはさまりやすい
- 歯がグラグラする
- タバコを吸っている
- 糖尿病である

2つ以上は要注意!
かかりつけ歯科医に相談しましょう。

歯周病は全身に関わる病気です!



歯周病は、動脈硬化、心筋梗塞、肥満など関係があることがわかってきています。

横浜市の 歯周病 検診方法

全ての歯を視診^(※1)、特定の歯の歯周ポケット^(※2)を測定

※1 レントゲン撮影は行いません ※2 歯周ポケット:歯と歯肉の間の溝

歯周病の予防や早期発見、治療のためには、かかりつけ歯科医で定期的なお口のチェック(歯周病検診など)を受けることが必要です。口腔がん等の早期発見にもつながります。

横浜市歯周病検診のご案内

対象者 40・50・60・70歳^{*}の横浜市民
受診費用 500円(70歳および市・県民税非課税世帯の方などは無料)

実施場所 横浜市歯周病検診実施医療機関

※受診日時点の年齢です

詳細はウェブをチェック! [横浜市歯周病検診](#) [検索](#)

〈健康福祉局 健康推進課〉

お問合せ

横浜市けんしん専用ダイヤル

TEL : 045-664-2606
FAX : 045-663-4469
8時30分~17時15分
(日・祝日・年末年始を除く)

HIV

エイズは「HIV(ヒト免疫不全ウイルス)」の感染者が発症する病気です。

日本でもHIV感染者が年々増加しています。2022年の横浜市内に届出されたHIV感染者は10件(男性9件、女性1件)・エイズ患者は6件(男性6件、女性0件)、総数では16件報告されています。

HIV感染を早期に発見し、適切な治療を行えば、エイズ発症を防ぎ、感染前とほぼ変わらない生活を送ることができます。しかし、エイズ発症後の治療は現在でも難しいため、感染の早期発見が重要です。

HIVに感染しているかどうかは、血液検査で調べることができます。横浜市ではHIV(エイズ)検査を平日のほか、火曜夜間・土曜日・日曜日に【無料・匿名】で行っています。詳しくは、下記にお問い合わせください。

平日相談検査: 各区福祉保健課健康づくり係(2ページ)
火曜夜間・土曜・日曜相談検査: 医療局健康安全課
(TEL: 045-671-2729・FAX: 045-664-7296)



CKD (慢性腎臓病)

CKD(慢性腎臓病)は、腎臓の働きが次第に低下する病気です。

腎臓は、血液中の老廃物をろ過して、尿として排出する大切な臓器です。高血圧や糖尿病などの「生活習慣病」や他の病気により腎臓の働きが低下すると、人工透析が必要になるほか、脳卒中や心筋梗塞にかかるリスクが高くなります。近年は、成人の8人に1人がかかっているといわれるほど増加していますが、進行するまで自覚症状がないため、健診による早期発見がとても重要です。特定健診など生活習慣病チェックのための健診を受診することをおすすめします。

CKDの主な検査

①腎障害を示す異常
尿・血液・画像検査(蛋白尿など)で
明らかな異常がある。

②腎機能(eGFRが60未満)
eGFRは、血液検査(血清クレアチニン)と年齢・性別から
計算できます。腎機能が低下すると、数値が下がります。

①と②のいずれか、または両方の状態が3か月以上続くとCKDと診断される。

